



ウィツキル通信

Hypochlorous Acid Water NEWS Vol.8

「アルミパウチが新しくなりました！」

今号では、詰め替えに便利なアルミパウチ入りウィツキルについてお話をさせていただきます。

ウィツキルは開封すると空気にふれる部分が多くなり、長期間置いていたうちに、濃度低下が起きてしまいます。濃度低下を起こす前に使い切っていただけならコストパフォーマンスもよいので18ℓや10ℓの大容量がおすすめですが、使用される量が少量の場合はこちらがおすすめです。

この商品は500mlのアルミパウチ容器入りのウィツキルが、1箱に20本入っております。きちんと遮光されている上、1本ずつ開封できるので、濃度低下がしにくいという点で大変ご好評をいただいております。

しかしながら、アルミパウチ容器は日が経つと劣化してまいります。品質保証期限の6か月をすぎる辺りから、表面が変色して見栄えが悪くなってしまうという欠点があり、どうしたものかと悩んでおりました。そんな時、あるアルミパウチ容器をご紹介いただき、そこから社内で耐久試験を重ねてまいりました。その結果、1年経っても全く劣化がみられなかったことから、新しいアルミパウチ容器に順次変更させていただく運びになりました。この容器は、内面のフィルム部分が改良されているため、現行の容器よりも劣化しにくくなっております。さらに、こちらのアル

ミパウチは従来商品よりも注ぎ口が小さくなり、注ぎやすくなりました。



耐久試験の様子 H30.8.24撮影

「こんなに使いやすい！」

ウィツキルアルミパウチ400ppmは、1本あたり500ml入りですので、4ℓもしくは5ℓタンクの噴霧器に入れる際に、噴霧器に入れて使用する際の推奨濃度約40ppmを簡単に作ることができます。また100ppmスプレーやプッシュポンプにうすめて使える詰め替え用としても利用いただけます。18ℓや10ℓのロンテナー容器は女性の方には重いため、こちらは軽くて扱いやすいと好評です。冬は大容量のロンテナー容器を使用して、夏はアルミパウチにするなど、使用量によって使い分けていただくのによいかと思います。ぜひとも、容器が新しく

ウィツキル アルミパウチの使い方

【超音波噴霧器で使用する場合】

- ①空のタンクに500ml(1本)を入れます
- ②水道水(4.5L)をタンク上部まで入れて、キャップを締めて下さい
- ③噴霧器本体にセットし、電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れます

【スプレーボトル(500ml)で使用する場合】

- ①空のスプレーボトルに125ml(約1/4)を入れます
- ②水道水(約375ml)をボトル上部まで入れて、キャップを締めて使用して下さい

【プッシュボトル(1000ml)で使用する場合】

- ①空のプッシュボトルに250ml(約1/2)を入れます
- ②水道水(約750ml)をボトル上部まで入れて、キャップを締めて使用して下さい



なった便利な「ウィツキルアルミパウチ」をお試しくださいます。

夏も終わり、インフルエンザが流行する冬が近づいてまいります。夏場は噴霧器を片付けているという方もいらっしゃるかと思います。今一度、噴霧器の試運転をして、冬の流りに備えて下さい。宜しくお願いいたします。

ウィツキル通信に関するお問い合わせ、感想または取り上げて欲しいテーマ等ございましたら、ご遠慮なく上記アドレスにご連絡下さい。

編集部一同心よりお待ちしております。